

老松

〱そもそも松の目出度きこと

萬木にすぐれ十八公のよそおい

千年の緑をなして古今の色をみす

〱秦の始皇の御狩のとき

天にわかにかきくもり

大雨しきりに降りしかば

帝雨をしのがんと

小松の陰へ寄り給う

〱この松たちまち大木となり

枝を垂れ葉を重ねて

木の隙間をふさぎてその雨をもらさざりしかば

〱帝大夫という爵を

贈りくだし給いてより

松を太夫と申すとかや

〱かよふに目出度き松が枝に

巢をくう田鶴の齡をば

君にささげて御子孫は

亀の萬劫ふる川の

流れ絶えせぬ金銀珠玉

どう々々どつと御蔵の

うちへ納まる家こそ目出度けれ